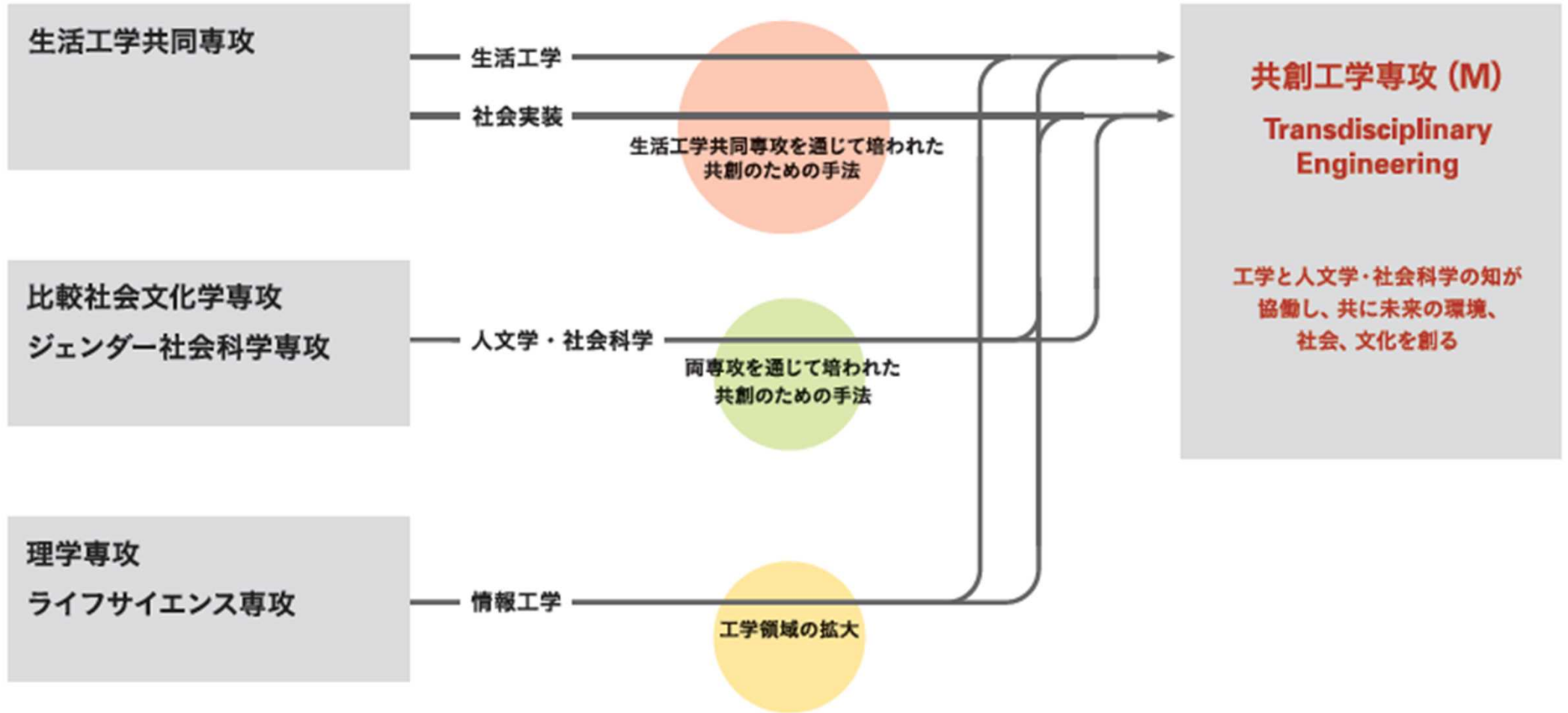


設置の趣旨等を記載した書類（資料編）

資料1：共創による工学領域の拡大	2
資料2：共創工学専攻（博士前期課程）設置に伴う教員の異動表	3
資料3：教育研究の柱となる専門分野（3つのカテゴリー）と中心的な学問分野	4
資料4：養成する人材像及び3ポリシー相関図	5
資料5：博士前期課程・博士後期課程の設置を目指す構想	6
資料6：科目群の体系性	7
資料7：カリキュラムマップ（10月入学を含む）	8
資料8：履修モデル1	9
履修モデル2	10
履修モデル3	11
履修モデル4	12
履修モデル5	13
履修モデル6	14
資料9：修了までのスケジュール（4月入学）	15
資料9：修了までのスケジュール（10月入学）	16
資料10：基礎となる学部との関係	17
資料11：共創工学専攻の3つのカテゴリーと共創工学部2学科のもつ専門領域との関連性	18
資料12：教育組織の体制	19

資料I：共創による工学領域の拡大



資料2：共創工学専攻（博士前期課程）設置に伴う教員の異動表

< 現行 >

(単位：名)

専攻・コース名	教授	准教授	講師	助教	計
生活工学共同専攻	5	4	1	1	11
比較社会文化学専攻 日本語日本文学コース	2	5		1	8
比較社会文化学専攻 アジア言語文化学コース	2	1		1	4
比較社会文化学専攻 思想文化学コース	1	1		2	4
比較社会文化学専攻 歴史文化学コース	4	7 (2)			11
ジェンダー社会科学専攻	9	9 (3)			18
理学専攻 情報科学コース	8 (2)	2 (1)	3		13
ライフサイエンス専攻 生命科学コース	8 (1)	2	1	1	12
合計	39	31	5	6	81

< 異動状況 >

共創工学専攻 への異動(兼担)
△11
△准教授1
△教授1
△助教1
兼担(准教授2)
△教授1 兼担(准教授3)
△准教授1 兼担(教授2、准教授1)
兼担(教授1)
△16 兼担(9)

< 設置後 >

(単位：名)

専攻名	教授	准教授	講師	助教	専任 計	兼担 計	教員
共創工学専攻	5	4	1	1	11		教授（太田、大瀧、長澤、元岡、近藤） 准教授（秋元、河合、Tripetto、藤山） 講師（土田） 助教（雨宮）
		1			1		准教授（土山）
	1				1		教授（伊藤さ）
				1	1		助教（佐藤）
						(2)	准教授（埋忠、遠藤）
	1				1	(3)	教授（宮澤） 教授（長谷川） 准教授（倉光、申）
		1			1	(3)	准教授（Le） 教授（伊藤貴、小口） 准教授（坂田）
						(1)	教授（由良）
	合計	7	6	1	2	16	(9)

資料3：教育研究の柱となる専門分野（3つのカテゴリー）と中心的な学問分野

3つのカテゴリー

共創工学専攻

文化情報

データサイエンス
文化情報工学
マルチメディア
データ工学

舞踊と工学
建築史学
デザイン工学

文化情報

人文学・社会科学の専門知にデータサイエンスを協働させ、デザイン思考、文化創成を行います。

環境

地理情報学
地理学

水環境工学
建築環境工学
人間環境工学
設計デザイン

環境

持続可能な環境を実現するための技術及びシステム作りを行います。

人間

バイオマテリアル
生活機能材料
生活工学
認知科学

人間工学
健康科学
自然人類学
言語情報学

人間

人間の健康を向上をさせるために、生体機能に基づいたマテリアル／デバイス開発を行います。

資料4：養成する人材像及び3ポリシー関連図

養成する人材像

技術的解決方法を探求する工学の知識と人間と文化・社会との関わりを探求する人文学・社会科学の知識及びデータサイエンスの知識を幅広くかつ協働して学び、**学術界・産業界・社会との協働を通して実践する共創能力を培うことにより、社会ニーズに対応した新しい技術の構築や技術を応用した文化の創造に資する実践力を有し、リーダーシップを発揮できる人材を養成する。**

DP

A.共創能力

幅広い工学、人文学・社会科学の専門領域を協働させ、新しい技術や文化すなわちモノ・コトを工学的手法によって創造することができる能力

B.専門力

自らの専門分野において高度な知識と技術、すなわち高度な専門知を修得し、その分野で専門家となりうる能力

C.実践力

社会ニーズに対応でき、かつ修得した高度な専門知を社会実装させ、リーダーシップを発揮できる能力

CP

(1)共創能力の基礎の涵養

共創基礎科目群：共創工学の基盤となる、共創のあり方を理解・修得する科目、倫理的・法的・社会的諸課題への理解を促す科目、知的財産を活用した価値創出を修得する科目、ビジネスに必要なデータサイエンスを修得する各基礎的科目を配置する。共創工学の基礎を身につける。

(2)専門力の涵養

専門科目群：共創工学の柱となる3つのカテゴリー（文化情報、環境、人間）を設定し、「工学系」と「工学と共創する学術系」の講義科目・演習科目を配置する。両系の科目を履修することによって、3つの学位に適應する専門力を修得する。

(3)共創能力 および 実践力の涵養

専門実践科目群：工学とデータサイエンス、人文学・社会科学とを高度に協働させ、社会実装する実践的な研究に取り組む演習科目を配置する。共創能力（発見力、発想力、デザイン力、対話力）を培い、主体的・協調的な学びの態度や実践力を涵養する。

AP

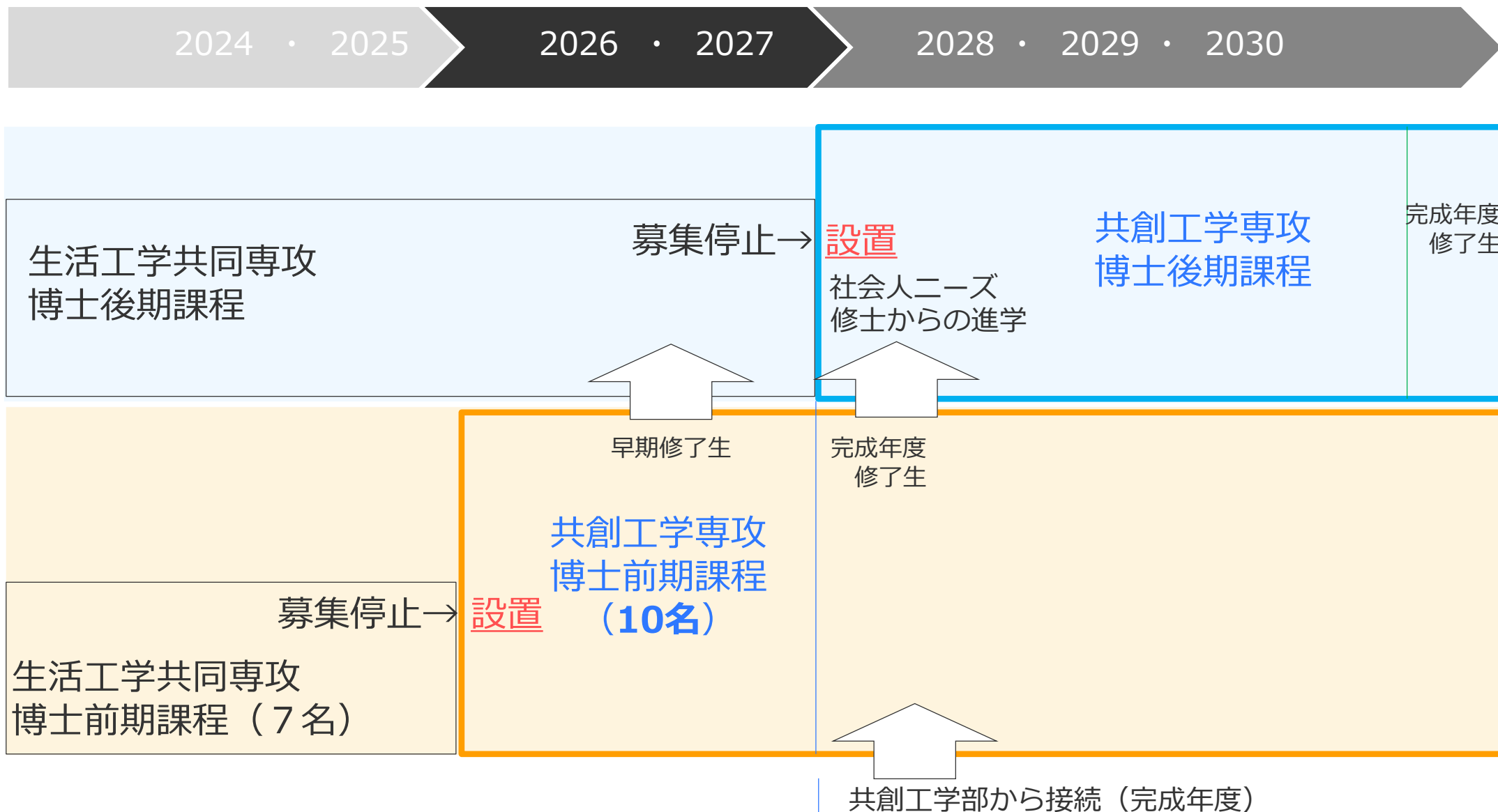
・共創工学の深い専門知識と高度な技術を身につけた技術者を目指している人

・学修した工学の知識と技術を、人文学・社会科学の知識と協働させて「生きた知識」「生きた技術」にし、現実的諸課題の解決に積極的に貢献したいという意欲をもっている人

・広い視野と倫理観を身につけて、共創工学の趣旨にもとづき、課題解決のためにさまざまな人と協働するためのリーダーシップや行動力、コミュニケーション力を発揮しようとする意欲をもっている人

資料5：博士前期課程・博士後期課程の設置を目指す構想

人間文化創成科学研究科博士前期課程「共創工学専攻」を 2026年度に設置
 人間文化創成科学研究科博士後期課程「共創工学専攻」を 2028年度に設置予定

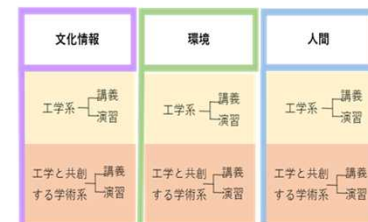


資料6：科目群の体系性

養成する人材像

技術的解決方法を探求する工学の知識と人間と文化・社会との関わりを探求する人文学・社会科学の知識及びデータサイエンスの知識を幅広くかつ協働して学び、**学術界・産業界・社会との協働を通して実践する共創能力を培うことにより、社会ニーズに対応した新しい技術の構築や技術を応用した文化の創造に資する実践力を有し、リーダーシップを発揮できる人材を養成する。**

科目群	ディプロマ・ポリシー (DP)		カリキュラム・ポリシー (CP)
専門実践科目群	A.共創能力	C.実践力	<p>(3)共創能力および実践力の涵養 (DPA・DPCに対応)</p> <p>専門実践科目群：工学とデータサイエンス、人文学・社会科学とを高度に協働させ、社会実装する実践的な研究に取り組む演習科目を配置する。共創能力を培い、主体的・協調的な学びの態度や実践力を涵養する。</p>
専門科目群	B.専門力		<p>(2)専門力の涵養 (DPBに対応)</p> <p>専門科目群：共創工学の柱となる3つのカテゴリー（文化情報、環境、人間）を設定し、それぞれに「工学系」、「工学と共創する学術系」の講義科目・演習科目を配置する。両系の科目を履修することによって、3つの学位に適応する専門力を修得する。</p>
共創基礎科目群	A.共創能力の基礎		<p>(1)共創能力の基礎の涵養(DPAに対応)</p> <p>共創基礎科目群：共創工学の基盤となる、共創のあり方を理解・修得する科目、倫理的・法的・社会的諸課題への理解を促す科目、知的財産を活用した価値創出を修得する科目、ビジネスに必要なデータサイエンスを修得する各基礎的科目を配置する。共創能力の基礎を身につける。</p>



A.共創能力：幅広い工学、人文学・社会科学の専門領域を協働させ、新しい技術や文化すなわちモノ・コトを工学的手法によって創造することができる能力（発見力、発想力、デザイン力、対話力）

B.専門力：自らの専門分野において高度な知識と技術、すなわち高度な専門知を修得し、その分野で専門家となりうる能力

C.実践力：社会ニーズに対応でき、かつ修得した高度な専門知を社会実装させ、リーダーシップを発揮できる能力

資料7：カリキュラムマップ（10月入学を含む）

2年

修士論文

専門実践科目群

共創能力（DPA）・実践力（DPC）の涵養：
高度な専門知を社会実装する実践的科目

◎ 共創工学特別研究（修士）（8）

- 共創工学演習Ⅰ（1）
 - 共創工学演習Ⅱ（1）
 - 共創工学演習Ⅲ（1）
 - 共創工学演習Ⅳ（1）
- 2単位以上

1年・2年

- 共創インターンⅠ（2）
- 共創建築インターンⅠ（2）
- 共創建築インターンⅡ（2）*
- 共創工学WS・ファシリテーション（LIDEE）（1）

* は修了要件に含めない

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

専門科目群

専門力（DPB）の涵養：高度な工学の知識・技術，共創する学術系知識

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち演習科目は4単位以上。

文化情報

- システムデザイン特論
- 建築意匠特論
- 都市デザイン特論
- 共創データベース特論
- 共創データ工学特論
- 画像・音声技術特論
- 可視化技術特論

- ヒューマンコンピュータインタラクション演習
- 空間デザイン演習
- 都市デザイン演習
- 共創データベース演習
- 共創データ工学演習
- 画像・音声技術演習
- 可視化技術演習

- テキストアナリティクス特論
- 文化情報学特論
- 歴史情報学特論

- テキストアナリティクス演習
- 文化情報学研究演習
- 歴史情報学研究演習

環境

- 水環境工学特論
- 建築環境工学特論
- 建築人間工学特論
- 共創コンピュータネットワークワーク特論
- 共創分散処理特論

- 水環境工学演習
- 建築環境工学演習
- 施設デザイン演習
- 共創コンピュータネットワークワーク演習
- 共創分散処理演習

- 自然地理学論
- 地理情報科学
- 都市環境学
- フェミニスト空間論

- 地理情報科学演習
- フェミニスト空間論演習

人間

- 身体行動計測特論
- バイオマテリアル特論
- 衣環境機能材料特論
- 共創数理情報学特論
- 共創非線形数理特論

- 身体行動計測演習
- バイオマテリアル演習
- 衣環境機能材料演習
- 共創数理情報学演習
- 共創非線形数理演習

- 第四紀学特論
- 共創生命情報学特論
- 言語科学特論
- 認知科学

- 人体計測学演習
- 共創生命情報学演習
- 言語科学演習
- 認知科学演習

共創基礎科目群

共創能力（DPA）の基礎の涵養：共創能力（発想力・発見力・デザイン力・対話力）の理解、工学分野との社会共創の基礎

- ◎ 共創工学概論（2）
- 共創データサイエンス演習（2）
- 知的財産特論（1）
- 技術者倫理（1）

4単位以上

資料8：履修モデル1 ～豊かな文化に囲まれた社会のために～

「文化情報」カテゴリーの 修了後の進路

情報コンサルティング業、
マスメディア、文化分
野・教育分野の事業にか
かわるデータサイエン
ティストや企画職、博物
館学芸員、研究職等

修士論文テーマ例
「古典文学作品の著者推定」

文学×テキストマイニング
×データサイエンスの協働

修了要件：30単位以上

計 **30** 単位

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち演習科目は4単位以上。

専門科目群

文化情報

環境

人間

工学系 工学的な課題解決・設計開発を行い、それらの成果を工学的観点か
ら評価する専門科目群

共創データ工学特論 (2)

工学系

共創数理情報学特論 (2)

可視化技術特論 (2)

6 単位

工学と共創する学術系 人文学・社会科学などの現実的諸課題に、工学的課
題解決を検討し、データサイエンスを取り入れ総合的に評価する専門科目群

テキストアナリティクス特論 (2)

工学と共創する学術系

言語科学特論 (2)

テキストアナリティクス演習 (2)

8 単位

言語科学演習 (2)

2年

専門実践科目群

◎ 共創工学特別研究 (修士) (8)

○ 共創工学演習 I (1)

○ 共創工学演習 II (1)

○ 共創工学演習 III (1)

○ 共創工学演習 IV (1)

1年2年

12 単位

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

修了

修士 (学術) 社会課題に対し、工学的視点に立つ定量分析による評価を軸として、
データサイエンスを活用しつつ、人間や文化に重点をおく文学、言語学、歴史学な
どの観点も含めて総合的に研究を展開する

1年2年

共創基礎科目群

4 単位

◎ 共創工学概論 (2)

○ 共創データサイエンス演習 (2)

「文化情報」育成する人材 人文学・社会科学の多様な資料 (テキスト、地図、造形、音声、映像など) をデジ
タル技術によって収集・加工し、データサイエンスを応用して多角的に解析できるだけでなく、工学知 (デザ
イン思考と技術) と結びつけ、新たな文化や価値の創造や課題解決を行う人材を育成する。

資料8：履修モデル2 ～豊かな文化に囲まれた社会のために～

「文化情報」カテゴリーの 修了後の進路

情報コンサルティング業、
マスメディア、文化分野・
教育分野の事業にかかわる
データサイエンティストや
企画職、博物館学芸員、
研究職等

修士論文テーマ例「ダンス動作のデータの分析とフィードバックによるアートへの展開」

修了

修士（共創工学） 社会科学的観点から新しいモノを具現化し、工学的な課題解決・設計・開発を行う研究

修了要件：30単位以上

計 **30** 単位

伝統芸能 × ダンス・パフォーマンス × データサイエンスの協働

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち「演習科目」は4単位以上。

専門科目群

文化情報

環境

人間

工学系 工学的な課題解決・設計開発を行い、それらの成果を工学的観点から評価する専門科目群

- ヒューマンコンピュータインタラクション演習 (2)
- 共創データベース特論 (2)
- 共創データベース演習 (2)

工学系 **6** 単位

工学と共創する学術系 人文学・社会科学などの現実的諸課題に、工学的課題解決を検討し、データサイエンスを取り入れ総合的に評価する専門科目群

- 文化情報学研究演習 (2)

工学と共創する学術系 **6** 単位

- 言語科学特論 (2)
- 言語科学演習 (2)

専門実践科目群

2年

◎共創工学特別研究（修士）（8）

- 共創工学演習Ⅰ（1）
- 共創工学演習Ⅱ（1）
- 共創工学演習Ⅲ（1）
- 共創工学演習Ⅳ（1）

1年 2年

共創インターンⅠ（2）

14 単位

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

1年 2年

共創基礎科目群

4 単位

- ◎共創工学概論(2)
- 知的財産特論(1)
- 技術者倫理 (1)

「文化情報」育成する人材 人文学・社会科学の多様な資料（テキスト、地図、造形、音声、映像など）をデジタル技術によって収集・加工し、データサイエンスを応用して多角的に解析できるだけでなく、工学知（デザイン思考と技術）と結びつけ、新たな文化や価値の創造や課題解決を行う人材を育成する。

資料8：履修モデル3 ～持続可能な社会のために～

修了

修士（工学） 考究や研究指導の過程の中で、より工学的な思考や革新的技術開発に向かう、工学的視点からの個別分野を深化させる研究

「環境」カテゴリーの
修了後の進路

都市開発やまちづくり、地方再生の計画におけるデザイン職、建築デザイナー、行政職、一級建築士、研究職等

修士論文テーマ例「水使用量を需要側でマネジメントするための情報伝達方法」

修了要件：30単位以上

計 **30** 単位

環境工学×デザイン
×認知科学の協働

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち「演習科目」は4単位以上。

専門科目群

文化情報

環境

人間

工学系 工学的な課題解決・設計開発を行い、それらの成果を工学的観点から評価する専門科目群

共創データベース特論(2)

水環境工学特論 (2)

工学系
8 単位

水環境工学演習 (2)

施設デザイン演習 (2)

1年 2年

○共創工学演習Ⅰ (1)

○共創工学演習Ⅱ (1)

○共創工学演習Ⅲ (1)

○共創工学演習Ⅳ (1)

12 単位

専門実践科目群

◎共創工学特別研究（修士）(8)

共創基礎科目群

4 単位

◎共創工学概論 (2)

○共創データサイエンス演習(2)

工学と共創する学術系 人文学・社会科学などの現実的諸課題に、工学的課題解決を検討し、データサイエンスを取り入れ総合的に評価する専門科目群

工学と共創する学術系
6 単位

地理情報科学(2)

認知科学 (2)

都市環境学 (2)

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

「環境」育成する人材 気候変動と災害・少子高齢化など様々な状況下における社会と人との関わりの中から新たな課題を見出し、健康や福祉の面において安全安心で快適な環境を多様な人々に対し提案する人材を育成する。

資料8：履修モデル4 ～持続可能な社会のために～

修了 **修士（共創工学）** 社会科学的観点から新しいモノを具現化し、工学的な課題解決・設計・開発を行う研究

「環境」 カテゴリーの
修了後の進路
都市開発やまちづくり、地方再生の計画におけるデザイン職、建築デザイナー、行政職、一級建築士、研究職等

修士論文テーマ例「**インクルーシブなトイレ環境の空間形成**」

修了要件：30単位以上

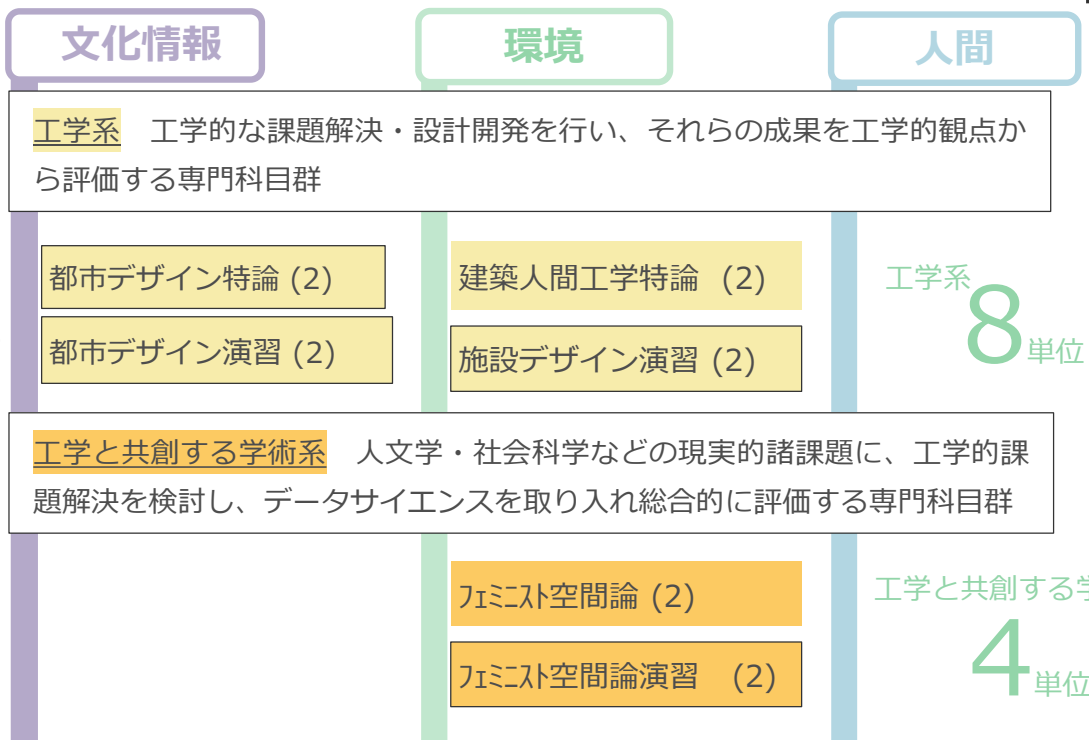
計 **30** 単位

都市工学
×環境心理とユーザー調査×デザイン科学の協働

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち演習科目は4単位以上。

専門科目群

専門実践科目群



- ◎ 共創工学特別研究（修士）（8）
- 共創工学演習Ⅰ（1）
- 共創工学演習Ⅱ（1）
- 共創工学演習Ⅲ（1）
- 共創工学演習Ⅳ（1）
- 共創建築インターンⅠ（2）

1年 2年

2年

1年 2年

共創基礎科目群
4 単位

工学系
8 単位

工学と共創する学術系
4 単位

14 単位

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

「環境」育成する人材 気候変動と災害・少子高齢化など様々な状況下における社会と人との関わりの中から新たな課題を見出し、健康や福祉の面において安全安心で快適な環境を多様な人々に対し提案する人材を育成する。

資料8：履修モデル5 ～QOL・ウェルビーイング向上のために～

修了 **修士（工学）** 考究や研究指導の過程の中で、より工学的な思考や革新的技術開発に向かう、工学的視点からの個別分野を深化させる研究

「人間」カテゴリーの修了後の進路

マテリアル系企業開発職、各種日常生活活動を支援する技術の開発、企画職、研究職等

修士論文テーマ例「**高分子ゲルによる生体材料の開発**」

修了要件：30単位以上

計 **30** 単位

生命情報学 × **バイオマテリアル**
× **環境工学分野の協働**

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち **演習科目** は4単位以上。

専門科目群

文化情報

環境

人間

工学系 工学的な課題解決・設計開発を行い、それらの成果を工学的観点から評価する専門科目群

工学系 **8** 単位

工学と共創する学術系 **4** 単位

- バイオマテリアル特論(2)
- バイオマテリアル演習(2)
- 共創数理情報学特論(2)
- 共創数理情報学演習(2)

工学と共創する学術系 人文学・社会科学などの現実的諸課題に、工学的課題解決を検討し、データサイエンスを取り入れ総合的に評価する専門科目群

- 都市環境学 (2)
- 共創生命情報学特論(2)

専門実践科目群

2年

◎ 共創工学特別研究（修士）（8）

○ 共創工学演習Ⅰ（1）

○ 共創工学演習Ⅱ（1）

○ 共創工学演習Ⅲ（1）

○ 共創工学演習Ⅳ（1）

共創工学WS・ファシリテーション（LIDEE）（1）

1年 2年

13 単位

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

共創基礎科目群

5 単位

◎ 共創工学概論 (2)

○ 共創データサイエンス演習 (2)

○ 技術者倫理 (1)

「人間」育成する人材 化学/生物系の専門知識を生かし、快適な空間を創造する材料/デバイス開発を通じて、多様な人々の生活の質を向上させるモノづくりやサービス開発を行う人材を育成する。

資料8：履修モデル6 ~QOL・ウェルビーイング向上のために~

修士（共創工学） 考究や研究指導の過程の中で、より工学的な思考や革新的技術開発に向かう、工学的視点からの個別分野を深化させる研究

「人間」カテゴリーの 修了後の進路

マテリアル系企業開発職、
各種日常生活活動を支援
する技術の開発、企画職、
研究職等

修士論文テーマ例「日本語コミュニケーション力の改善」

修了要件：30単位以上

計 **30** 単位

言語学×データサイエンス
×システムデザインの協働

専門科目群

工学系科目より4単位以上、
工学と共創する学術系科目より4単位以上、
そのうち演習科目は4単位以上。

文化情報

環境

人間

工学系 工学的な課題解決・設計開発を行い、それらの成果を工学的観点から評価する専門科目群

システムデザイン特論(2)

工学系

6 単位

共創数理情報学特論 (2)

共創数理情報学演習 (2)

共創基礎科目群

5 単位

◎ 共創工学概論 (2)

○ 共創データサイエンス演習(2)

○ 知的財産特論 (1)

工学と共創する学術系 人文学・社会科学などの現実的諸課題に、工学的課題解決を検討し、データサイエンスを取り入れ総合的に評価する専門科目群

工学と共創する学術系

4 単位

言語科学特論(2)

言語科学演習(2)

専門実践科目群

2年

◎ 共創工学特別研究（修士）（8）

○ 共創工学演習Ⅰ（1）

○ 共創工学演習Ⅱ（1）

○ 共創工学演習Ⅲ（1）

○ 共創工学演習Ⅳ（1）

共創インターンⅠ（2）

共創工学WS・ファシリテーション
（LIDEE）（1）

1年 2年

15 単位

◎ 必修科目 ○ 選択必修科目

「人間」育成する人材 化学/生物系の専門知識を生かし、快適な空間を創造する材料/デバイス開発を通じて、多様な人々の生活の質を向上させるモノづくりやサービス開発を行う人材を育成する。

資料9：修了までのスケジュール（4月入学）

<p>新入生オリエンテーション</p>		1年次 前学期	
<p>主任指導教員、副指導教員1名以上、研究テーマの決定</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 履修科目、資格及び取得を希望する学位に応じた履修プログラムの説明 カリキュラムマップ・履修モデルの提示
<p>履修指導</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 主任指導教員：学生の専門分野におけるカテゴリーの専任教員 副指導教員：異なるカテゴリーの専任教員又は兼担教員
<p>2年間の履修計画を立てる</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ：学生の「研究計画」をもとに、指導教員と協議しながら設定する。 学生と十分に打合せを行い、主任指導教員により1年次の「研究指導計画書」を策定する。
<p>共創基礎科目群</p> <p>共創工学概論 ◎必修 他3科目 ○選択必修</p>	<p>専門科目群</p> <p>文化情報</p> <p>工学系—講義 —演習</p> <p>工学と共創—講義 —演習 する学術系</p> <p>環境</p> <p>工学系—講義 —演習</p> <p>工学と共創—講義 —演習 する学術系</p> <p>人間</p> <p>工学系—講義 —演習</p> <p>工学と共創—講義 —演習 する学術系</p> <p>工学系科目より2科目以上 共創する学術系科目より2科目以上 そのうち演習科目は2科目以上 ○選択必修</p>	<p>学生：「研究計画」作成 教員：「研究指導計画書」策定</p>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野や修了後の進路、研究テーマ、取得したい学位を考慮し、指導教員と相談しつつ、2年間の履修計画を立てる。
<p>専門実践科目群</p> <p>共創工学演習 I～IV ○選択必修 その他4科 選択</p>		<p>中間報告</p>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業・研究を開始。
<p>共創工学特別研究（修士） ◎必修</p>		<p>1年次後期ガイダンス</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p>	<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況について、主任指導教員及び副指導教員に報告し、指導を受ける。
		<p>2年次後期ガイダンス</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p>	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ・内容の確認、履修状況確認による当初の計画を修正し、引き続き推進する。
		<p>2年次ガイダンス</p> <p>学生：「研究計画」の確認・修正 教員：「研究指導計画書」の策定</p> <p>論文題目の確定</p> <p>中間報告</p>	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ・内容の確認、履修状況確認による当初の計画を修正し、引き続き推進する。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>1月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告を作成し、指導教員及び共創工学専攻の教員に対して中間発表を行う。 必要に応じて倫理審査を準備・検討する。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>2年次 前学期</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員と1年次に定めた研究計画について確認を行い、必要な修正を行う。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の研究計画の進捗状況の確認し、必要に応じて修正を行う。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と十分に打合せを行い、主任指導教員により2年次の「研究指導計画書」を策定する。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>4月～8月</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員と協議の上、論文題目を確定させる。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況について、主任指導教員及び副指導教員に報告し、指導を受ける。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>2年次 後学期</p> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文題目届を提出する。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告を作成し、指導教員・共創工学専攻の教員に対して発表を行う。 研究進捗状況の確認、論文完成に至るまでのディスカッションを行う。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>12月～1月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科に修士論文審査委員会が設置される。「修士論文及び要旨を提出」する。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>12月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの指導を受ける。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>1月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査会による修士論文口述試験が行われ、審査報告書が作成される。
		<p>論文題目の提出</p> <p>研究報告作成・中間発表会</p> <p>修士論文・要旨の提出</p> <p>修士論文発表会</p> <p>修士論文審査会</p> <p>修士論文完成</p>	<p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科において審議され、課程修了の可否が決定される。

修士（共創工学）

修士（工学）

修士（学術）

修了

資料9：修了までのスケジュール（10月入学）

<p>新生オリエンテーション</p>		1年次 後学期	
<p>主任指導教員、副指導教員1名以上、研究テーマの決定</p>		10月	<ul style="list-style-type: none"> 履修科目、資格及び取得を希望する学位に応じた履修プログラムの説明 カリキュラムマップ・履修モデルの提示
<p>履修指導</p>		10月	<ul style="list-style-type: none"> 主任指導教員：学生の専門分野におけるカテゴリーの専任教員 副指導教員：異なるカテゴリーの専任教員又は兼任教員
<p>研究指導</p>		10月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ：学生の「研究計画」をもとに、指導教員と協議しながら設定する。 学生と十分に打合せを行い、主任指導教員により1年次の「研究指導計画書」を策定する。
<p>2年間の履修計画を立てる</p>		10月	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野や修了後の進路、研究テーマ、取得したい学位を考慮し、指導教員と相談しつつ、2年間の履修計画を立てる。
<p>共創基礎科目群</p> <ul style="list-style-type: none"> 共創工学概論 ◎必修 他3科目 ○選択必修 		10月	<ul style="list-style-type: none"> 授業・研究を開始。
<p>専門科目群</p> <p>文化情報</p> <p>工学系<small>—</small>講義 演習</p> <p>工学と共創<small>—</small>講義 演習する学術系</p> <p>環境</p> <p>工学系<small>—</small>講義 演習</p> <p>工学と共創<small>—</small>講義 演習する学術系</p> <p>人間</p> <p>工学系<small>—</small>講義 演習</p> <p>工学と共創<small>—</small>講義 演習する学術系</p> <p>工学系科目より2科目以上共創する学術系科目より2科目以上そのうち演習科目は2科目以上○選択必修</p>		1月	<ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況について、主任指導教員及び副指導教員に報告し、指導を受ける。
<p>専門実践科目群</p> <ul style="list-style-type: none"> 共創工学演習 I～IV ○選択必修 その他4科 選択 		1年次 前学期	
<p>共創工学特別研究 (修士)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎必修 		4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ・内容の確認、履修状況確認による当初の計画を修正し、引き続き推進する。
<p>中間報告</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 各自の研究計画の進捗状況の確認し、必要に応じて修正を行う。
<p>1年次後期ガイダンス</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 学生と十分に打合せを行い、主任指導教員により1年次後半の「研究指導計画書」を策定する。
<p>学生：「研究計画」の策定</p>		9月	<ul style="list-style-type: none"> 研究報告を作成し、指導教員及び共創工学専攻の教員に対して中間発表を行う。 必要に応じて倫理審査を準備・検討する。
<p>教員：「研究指導計画書」の策定</p>		2年次 後学期	
<p>研究報告作成・中間発表会</p>		10月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ・内容の確認、履修状況確認による当初の計画を修正し、引き続き推進する。
<p>2年次ガイダンス</p>		10月～2月	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員と協議の上、論文題目を確定させる。
<p>論文題目の確定</p>		1月～2月	<ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況について、主任指導教員及び副指導教員に報告し、指導を受ける。
<p>中間報告</p>		2年次 前学期	
<p>論文題目の提出</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文題目届を提出する。
<p>学生：「研究計画」の確認・修正</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 各自の研究計画の進捗状況の確認し、必要に応じて修正を行う。
<p>教員：「研究指導計画書」の策定</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 学生と十分に打合せを行い、主任指導教員により2年次の「研究指導計画書」を策定する。
<p>研究報告作成・中間発表会</p>		4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究報告を作成し、指導教員・共創工学専攻の教員に対して発表を行う。 研究進捗状況の確認、論文完成に至るまでのディスカッションを行う。
<p>修士論文・要旨の提出</p>		6月～7月	<ul style="list-style-type: none"> 研究科に修士論文審査委員会が設置される。「修士論文及び要旨を提出」する。
<p>修士論文発表会</p>		6月～8月	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの指導を受ける。
<p>修士論文審査会</p>		7月～8月	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文審査会による修士論文口述試験が行われ、審査報告書が作成される。
<p>修士論文完成</p>		9月	<ul style="list-style-type: none"> 研究科において審議され、課程修了の可否が決定される。

修士（共創工学）

修士（工学）

修士（学術）

修了

資料10：基礎となる学部との関係

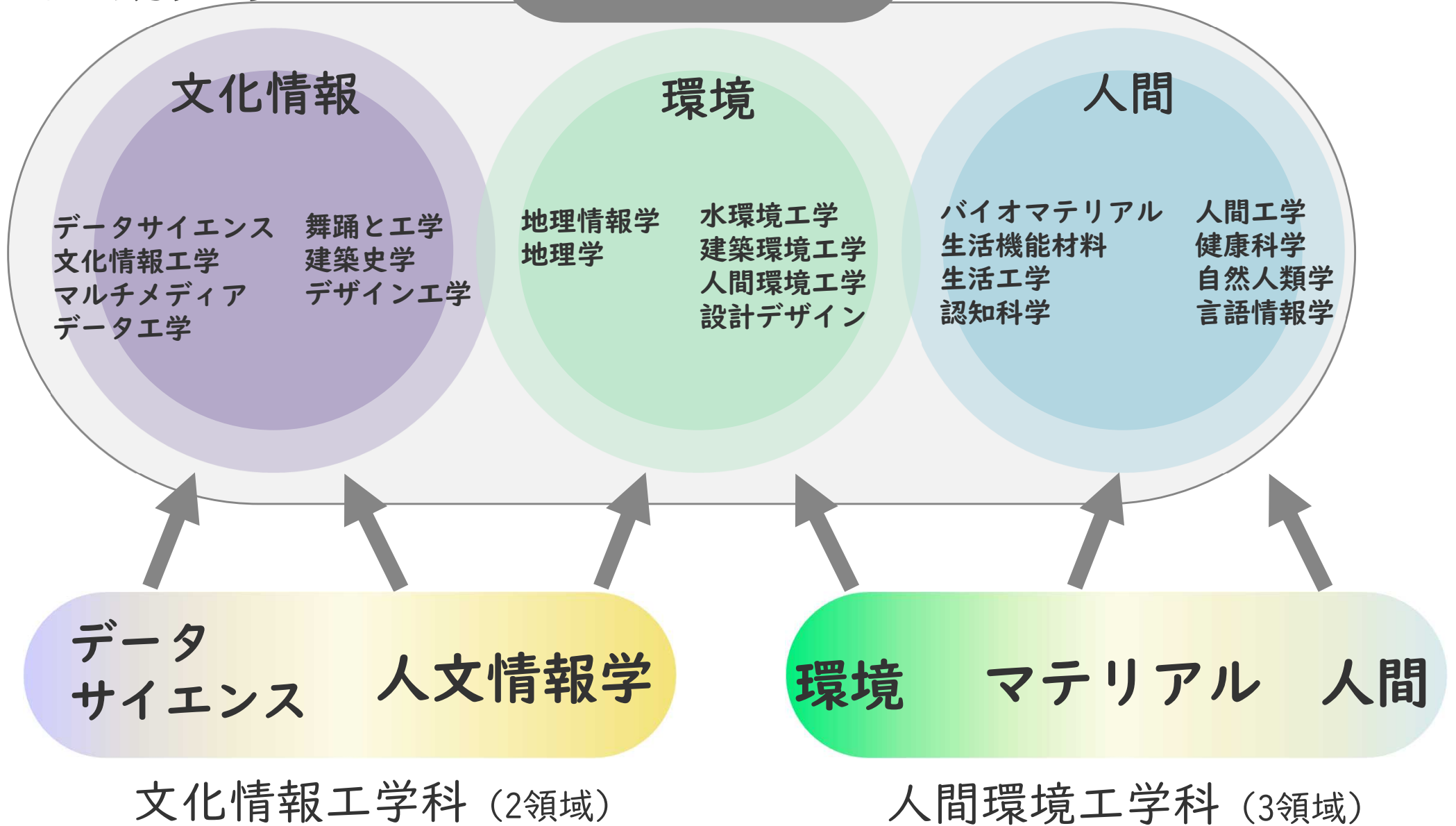
2026・2027											2028～																																	
博士前期課程											博士前期課程																																	
比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻			ジェンダー 社会科学専攻	ライフサイエ ンス専攻		理学専攻	共創工学 専攻	比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻			ジェンダー 社会科学専攻	ライフサイエ ンス専攻		理学専攻	共創工学 専攻																					
定員 58名				27名			18名	39名		70名	10名	定員 58名				27名			18名	39名		70名	10名																					
日本語 日本文学 コース	アジア 言語文化 学コース	英語圏・ 仏語圏 言語文化 学コース	日本語 教育コース	思想文化 学コース	歴史文化 学コース	生活文化 学コース	舞踊・表 現行動学 コース	音楽表現 学コース	教育科学 コース	心理学 コース	発達臨床 心理学 コース	応用社会 学コース	保育・児 童学 コース		生命科学 コース	食品栄養 学コース	遺伝力 ウンセリ ング コース	数学 コース	物理科学 コース	化学・生 物化学 コース	情報科学 コース		日本語 日本文学 コース	アジア 言語文化 学コース	英語圏・ 仏語圏 言語文化 学コース	日本語 教育コース	思想文化 学コース	歴史文化 学コース	生活文化 学コース	舞踊・表 現行動学 コース	音楽表現 学コース	教育科学 コース	心理学 コース	発達臨床 心理学 コース	応用社会 学コース	保育・児 童学 コース		生命科学 コース	食品栄養 学コース	遺伝力 ウンセリ ング コース	数学 コース	物理科学 コース	化学・生 物化学 コース	情報科学 コース

学部											学部																	
文教育学部				理学部			生活科学部				定員 24+3	文教育学部				理学部			生活科学部		共創工学部		定員 26+3 20					
人文科学 科	言語文化 学科学 科	人間社会 学科学 科	芸術・表 現行動学 科	数学 科	物理学 科	化学 科	生物学 科	情報科学 科	食物栄養 学科学 科	人間生活 学科学 科	心理学 科	人間・環 境科学 科	他大学・ 留学生	人文科学 科	言語文化 学科学 科	人間社会 学科学 科	芸術・表 現行動学 科	数学 科	物理学 科	化学 科	生物学 科	情報科学 科	食物栄養 学科学 科	人間生活 学科学 科	心理学 科	人間環境 工科学 科	文化情報 工科学 科	他大学・ 留学生

資料11：共創工学専攻の3つのカテゴリーと共創工学部2学科のもつ専門領域との関連性

共創工学専攻

3つのカテゴリー



資料12：教育組織の体制

文化情報

デジタルヒューマニティーズ
文化創成，デザイン思考

環境

持続可能な環境
人間・環境系システム

人間

健康・マテリアル
人間工学

「工学系」

ヒューマンインターフェース，インタラクション	土田 修平（専任）
建築史・意匠，設計	元岡 展久（専任）
デザイン工学，建築	藤山 真美子（専任）
マルチメディア，コンピュータビジョン	伊藤 貴之（兼担）
データ工学，情報ストレージシステム	Le Hieu Hanh（専任）

「工学と共創する学術系」

テキストアナリティクス，情報学ポテンシャル	土山 玄（専任）
文化情報学	埋忠 美沙（兼担）
歴史情報学，日本史学	遠藤 みどり（兼担）

「工学系」

建築計画	河合 英徳（専任）
環境衛生，水環境工学	大瀧 雅寛（専任）
建築環境工学	長澤 夏子（専任）
情報ネットワーク	小口 正人（兼担）

「工学と共創する学術系」

地理情報学，地域分析	宮澤 仁（専任）
自然地理学	長谷川 直子（兼担）
都市地理学，経済地理学	申 知燕（兼担）
文化地理学	倉光 ミナ子（兼担）

「工学系」

人間工学，生体医工学	太田 裕治（専任）
バイオマテリアル	秋元 文（専任）
健康科学	Tripette Julien（専任）
生活機能材料学	雨宮 敏子（専任）
統計科学・情報科学	坂田 綾香（兼担）

「工学と共創する学術系」

自然人類学	近藤 恵（専任）
言語情報学，言語学	伊藤 さとみ（専任）
生命情報	由良 敬（兼担）
認知科学，思想情報学	佐藤 有理（専任）